

イタリアンライグラス超極早生新品種「シワスアオバ」の播種適期					
[要約] イタリアンライグラス超極早生品種「シワスアオバ」の播種適期は9月中旬から10月下旬で、出穂期3回刈の場合は9月中旬から10月上旬、出穂期2回刈の場合は10月中・下旬に播種すると多収となる。					
担当部署	畜産研究所・飼料部・飼料作物研究室			連絡先	092-925-5229
対象作目	飼料作物	専門項目	栽培	成果分類	生理生態

[背景・ねらい]

イタリアンライグラスは収量性、栄養価ともに優れており、県内の粗飼料生産の基幹草種として広く利用されている。

近年、これまでの品種よりも出穂期が極めて早く、年内収穫も可能な超極早生品種「シワスアオバ」が育成された。年内及び早春に収穫が可能になれば自給飼料の収穫作業の平準化も期待でき、農家にとってもメリットが大きいと考えられるが、本県の気象条件下における栽培特性については不明な点が多く、早急に栽培法を確立する必要がある。

そこで、播種期の早晩が「シワスアオバ」の生育特性、収量性、雑草との競合に及ぼす影響について調査し、本県における「シワスアオバ」の播種適期を明らかにする（要望機関名：畜産課（H10））。

[成果の内容・特徴]

- 10月中・下旬に播種すると1番草の出穂期は3月20日頃となり、極早生品種「ミナミアオバ」よりも約2週間早く収穫できる（表1）。また、2番草の収穫期は4月20日頃で、合計乾物収量は「ニオウダチ」とほぼ同等である（表2）。
- 9月中旬から10月上旬までに播種すると1番草は年内に刈取適期である出穂期に到達するため年内1回、春2回の収穫が可能となる。合計乾物収量は「ニオウダチ」とほぼ同等である（表2）。
- 9月上旬以前に播種した場合、1番草の雑草割合が多くなり（図1）、極めて低収となる（表2）。また、11月中旬以降に播種した場合、発芽が悪く（表1）、1番草の雑草割合もやや増加し（図1）、低収となる（表2）。

[成果の活用面・留意点]

- 「シワスアオバ」を利用した作付計画を立てる際の参考として活用できる。
- 年内草をサイレージ調製する場合、予乾が進まず高水分サイレージとなるため早期に給与する。

[具体的データ]

表1 播種期別の発芽率と1番草出穂期

播種期	発芽率 (%)	出穂期 (月日)
・シワスアオバ (平成11年)		
10月 6日	90	12.15
10月22日	90	3.21
(平成12年)		
8月31日	84	11.16
9月18日	93	12. 4
10月 4日	82	12.22
10月17日	100	3.22
11月24日	60	4. 6
・ミナミアオバ (平成11年)		
10月22日	94	4. 4
(平成12年)		
10月18日	88	4. 6

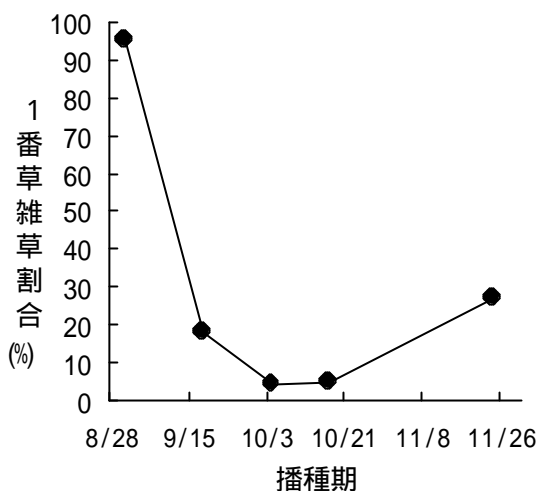


図1 播種期と1番草雑草割合の関係 (平成12年)

表2 播種期別収量性の比較

播種期	刈取月日			乾物収量 (kg/10a)			
	1番草	2番草	3番草	1番草	2番草	3番草	合計
・シワスアオバ (平成11年)							
10月 6日	12.15	4.10	5.16	237	697	497	1,431
10月22日	3.21	4.20	-	714	469	-	1,183
(平成12年)							
8月31日	11.16	4.10	5.10	18	417	288	723
9月18日	12. 4	4.10	5.10	273	707	264	1,244
10月 4日	12.22	4.10	5.10	383	699	273	1,355
10月17日	3.22	4.20	-	900	538	-	1,438
11月24日	4.11	5. 8	-	446	285	-	731
・ミナミアオバ (平成11年)							
10月22日	4. 5	5. 1	-	914	352	-	1,266
(平成12年)							
10月18日	4. 6	5. 2	-	927	255	-	1,182
・ニオウダチ (平成11年)							
10月22日	4.17	5.15	-	827	417	-	1,244
(平成12年)							
10月18日	4.19	5.17	-	972	332	-	1,305

[その他]

研究課題名：平場の転作水田の利活用による自給飼料の周年利用作付体系技術の確立
 予算区分：国庫（新技術）
 研究期間：平成12年度（平成11～14年）
 研究担当者：井上信明、家守紹光、馬場武志、藤吉弘子
 発表論文等：平成12年度畜産関係試験成績書